



学部長ごあいさつ

保健医療学部長 片寄 正樹

昨年の夏は猛暑、酷暑でした。これも昨年春から続いていた海面水温が上がるエルニーニョ現象がひとつの背景のようです。今年の春にはこのエルニーニョ現象は終息の方向で平常に戻るとの予測がありますが、秋以降は海面水温が下がるラニーニャ現象が発生する可能性が高いとの予測が出ています。この状況から酷暑、猛暑とならないことを期待しつつ、冬場の異常気象も気になる1年になりそうです。

そんな2024年度がスタートしておりますが、保健医療学部でもコロナ禍を克服しつつ全ての学事がコロナ前の状況に戻って参りました。入学式も完全対面で実施し、大学祭も5年ぶりに再開されることになりました。この通信が皆様のところへ届く頃、まさに6月6日から9日にかけて「祭り」をテーマに開催されます。学生が協力して祭をお起こし、5年ぶりの祭りを再起させる意味が込められています。久しぶりの大学祭が学生生活に彩りを添えていくことを心から期待しているところです。

一方で、本年度は大学が機関別認証評価という外部評価を受審する時期となりました。大学機関としての全学の運営がその評価の対象となります。これまでも、日本看護学教育評価機構による看護学、そしてリハビリテーション教育評価機構による理学療法学、作業療法学の専門分野別評価機構による評価を受審し、全てに承認されてきておりますが、本年度は全学としての運営を総合的視点で認証評価を受けるものです。外部からの評価を得る機会は重要であり、この機会を活用して、本学の適正な大学運営と良質な教育研究環境を整備していくことが求められています。

保健医療学部ではこの外部評価の仕組みに積極的に取り組む一方で、本年度よりステークホルダー会議を設置し、行政、医療機関、後援会、同窓会、そして学生代表も含めたステークホルダーと学部運営についての情報交換を行うこととしました。多様なステークホルダーのご意見は、貴重であり、本学部の発展に大きく寄与する制度になるものと思っております。これらの制度も有効に活用し、これらからの社会で必要とされる保健医療を見定め、さらなる充実した教育環境の整備を進めるとともに有意義な学生生活となるようサポートしてまいりたいと思っております。

保護者そしてご家族の皆様におかれましては引き続き、本学へのご支援のほどお願いを申し上げます。



【令和6年度 学事予定】 (1~4学年)

4月 8日 ~ 4月 9日	新入生オリエンテーション
4月 15日	前期講義開始
6月 6日 ~ 6月 9日	大学祭
6月 25日	大学記念日
7月 16日 ~ 7月 26日	前期定期試験 (4年生 看護)
8月 5日 ~ 8月 30日	夏季休業 (1・2・3年生)
7月 29日 ~ 8月 2日	" (4年生 看護)
8月 13日 ~ 8月 16日	" (")
8月 5日 ~ 8月 30日	" (4年生 理学)
7月 22日 ~ 8月 2日	" (4年生 作業)
9月 2日 ~ 9月 20日	前期定期試験 (1・2年生)
9月 2日 ~ 9月 13日	前期定期試験 (3年生 看護)
9月 2日 ~ 9月 20日	前期定期試験 (3年生 理学・作業)
9月 30日	後期講義開始
10月 10日 ~ 10月 12日	体育祭
12月 6日	文化芸術祭
12月 16日 ~ 1月 3日	冬季休業
2月 12日 ~ 3月 4日	後期定期試験 (1・2年生)
1月 20日 ~ 1月 24日	" (3年生 理学)
2月 12日 ~ 3月 4日	" (3年生 作業)
3月 21日	卒業式



入学式



新入生オリエンテーション

学科長ごあいさつ

看護学科長 今野 美紀



ご入学・ご進級おめでとうございます。看護学を学ぶ仲間の皆さんを心より歓迎いたします。らてす（大学と附属病院を繋ぐ広場）に桜の花が咲き、サークルへ新入生を導いている先輩たちの姿から、キャンパス内ではコロナ前の日常が戻りつつあることを感じます。

緊張の面持ちで登校されていた1年生はオリエンテーションやグループワーク等の活動を経て、大学での生活に馴染み始めています。2年生は「疾病治療論」、「人間発達学」等、看護学を支える専門基礎科目の授業が多くなり、生活とのバランスを保ちつつ学んでいます。3年生は看護学の専門科目の比重が一段と高まり、これまで以上に沢山の学習課題を遂行しています。後期には16週間に及ぶ実習があり、その備えとなっています。そして4年生は看護技術総合演習、看護学研究など、統合学習に取り組み、進学・就職活動、国家試験勉強と更にコツコツと歩みを進めています。毎年行われている4年生の一人一人が取り組む看護学研究のテーマは、今日的な看護学上の課題を鮮やかに抽出しており、この先の成長に期待が膨らみます。コロナ禍において看護学研究の運営では、研究対象者との間での感染を予防する為、実際の研究対象者からのデータ収集は止めて、研究計画書作成に留めておりました。今年から、コロナ前と同様に研究計画書作成、データ収集、論文の執筆・報告を行い、リアルに近い研究活動を再始動します。将来の優れたリーダーの素養となる現象を多角的に捉える視点、概念化する力、関係者と協働する力などが育まれます。

保護者の皆様におかれましても、本学教育活動にご理解とご支援を頂きますよう、どうぞよろしくお願い致します。

理学療法学科長 渡邊 耕太



コロナ禍を超え、以前と同じように学生達と対面での活動ができることを嬉しく思っております。また、新入生を迎えて大学内もさらに活気に満ちているように感じております。この4月には大学のプロモーションビデオを公開しました。これには主に学生さんに向けての情報を盛り込んでおり、どのような学生生活を送り、将来に向けてどのように成長していくのかがわかるかと思えます。大学のホームページから見られますので、ぜひご覧いただければ幸いです。昨年本学部は開設30周年を迎えました。記念式典や記念誌によって過去を振り返り、未来に向けての思いを共有しました。さらなる飛躍に向けて、現学生達がここから新たな歴史を作ってくれることと期待しております。

本学の歴史の中で一貫しているのは、世界最高レベルの医科大学を目指すことと、地域医療への貢献です。理学療法学科では、その特徴である少人数制、3つの学科と医学部のある総合医科大学、そして大学附属病院の隣接という環境をフルに活用し教育に尽力しております。学生達には札幌医科大学で学んでいることに誇りを持っていただきたい。そしてこれからも、道民の健康を支えるという意欲を持つ人材、そして我が国の理学療法のリーダーとなる人材を育てていきます。保護者の皆様におかれましては、本学の活動に引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

作業療法学科長 仙石 泰仁



新年度を迎え、保護者の皆様にはご清栄のこととお慶び申し上げます。昨年度に引き続き学科長を拝命いたしました仙石です。今年度も何卒よろしくお願い申し上げます。さて、今年に入り3月には卒業式、4月には入学式を数年ぶりに対面で、また、保護者の皆様の参列の中で行うことができ、いよいよ以前の日常が戻ってきたと実感しております。節目の行事は学生にとっては新しい人生のステップへ踏み出す心構えを作ると共に、わかれや出会いを演出する重要な場となっていることを改めて感じる事ができました。作業療法では個々の人々が日常生活や社会参加において行う活動や仕事、趣味、学習など、さまざまな行為を「作業」として捉え、この作業を障害や疾病の有無にかかわらず継続して行えるよう支援することによって、身体的、精神的、社会的な機能や能力の向上を促し、その人の生活の質を高めていくことを基本的な治療原理と考えています。卒業式や入学式はこれまでの大学生・高校生としての生活を総括し、医療専門職・医療系の大学生としての自身の立場や心構えを作る場であり、また、周りの人々がそのように認識することで立場の社会化を図る契機となっていると、作業療法的には考えることもできると思います。

作業療法学科では卒業生に対しては卒業後教育研修や定期的な勉強会などを開催し卒業生の支援を継続して行い、卒業教育の機会を提供しています。また、在学生に対しては臨床現場で働く先輩作業療法士や障害当事者を招いての講義なども行っております。これらの取り組みを通じて、学生の医療専門職としての心構えや社会での役割などを涵養していけるよう、教職員一同努力していきたいと思っております。保護者の皆様にも、是非、学科の教育方針をご理解いただき、ご協力を頂ければ幸いです。

リハビリテーション教育評価の受審について（作業療法学科）

作業療法学科では今年度リハビリテーション教育評価を受審することとなり、その内容と意義についてご説明をさせて頂きたいと思っております。リハビリテーション教育評価は「一般社団法人全国リハビリテーション学校協会 定款」並びに厚生労働省「理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドライン」の規定により5年に一度行うもので、リハビリテーション教育施設の質を評価するものとされています。具体的にはリハビリテーション教育プログラムの公正かつ適正な評価を行い、その教育施設の優れている点や課題を明らかにし、一定の水準を満たしていると認められた教育施設に対して認定証が発行されます。



先駆的な取り組みとして導入された客観的臨床技能試験（OSCE）の様子

作業療法学科では今年度で3度目の評価受審となります。評価内容は教員の人数や学位・専門領域・社会貢献の状況、教育施設の設備や備品、学生定員数や教務関係の制度や組織、教育カリキュラム内容、臨床実習施設の確保状況や指導者の質、関連図書の実用度など多岐にわたる内容を審査されることとなります。私たちの学科はすべての内容において国内ではトップ水準にあると考えており、審査結果についての不安はありませんが、「適合（S）」の評価を得られるよう（評定表記のSは100点満点のうち90点以上の得点であったことを示します）。準備をしっかり行い評価に臨むように学科教員一同で現在取り組んでいるところです。

また、作業療法士養成課程では、同機構の評価が世界作業療法士連盟（The World Federation of Occupational Therapists, WFOT）認定校としての審査を兼ねており、併せて評価が行われます。WFOTは世界107か国の作業療法士の団体が加盟している世界的な組織で、作業療法に関する国際協力の推進を行うことを中心に、作業療法の普及や発展・教育研究水準を定めている組織です。WFOT認定校となることで、海外での養成機関に在籍せずにその国の国家試験を受験することができる（国によって資格制度が異なるため試験の無い国や大学卒業以上の学歴が必要など様々な基準があります）など、海外で働く、大学院を受験するといった際に卒業生には有利になります。本学科は認定校制度の開始当初から認定されておりますが、継続して認定校となれるように審査に臨みたいと考えています。

令和6年度を迎えて 教務委員長（看護学科 教授） 正岡経子

保健医療学部では、昨年度末の3月に87名の卒業生を送り出しました。卒業式ではいくつかのサークルの後輩達が先輩の卒業を祝うために、式典会場の入口に集まっている様子が見られ、久しぶりにコロナ禍前の本学の卒業式の姿を垣間見ることができました。そして、新年度4月、保健医療学部には90名の新入生を迎え、3学科の1学年から4学年の合計は364名となり、未来の看護師、理学療法士、作業療法士の教育が始動しました。

保健医療学部教務委員会は、3学科（看護学科、理学療法学科、作業療法学科）の学生の入学・退学・卒業に関すること、教育課程や試験、単位認定、授業科目の修了など教務に係る重要な事項を審議する組織です。今年度は、保健医療学部3学科の教員9名と医療人育成センターの教員2名の合計11名で構成されています。札幌医科大学に入学した学生の皆さんが、本学の建学の精神に謳われる医療人として、社会に出ていくことを支援する組織の一つです。また、令和2年に文部科学省中央教育審議会より発出された、教育マネジメント指針に示されている「予測困難な時代を生き抜く自律的な学修者の育成」を目指し、学生に公平で質の高い教育を保障するための重要な役割を担っています。

令和6度の活動としては、前年度に引き続き卒業研究ルーブリック(学修到達度を占める評価基準)の検討・開発、臨床実習ルーブリックの改良等に取り組んでいきます。また、新たな取り組みとして、一般教育科目を担当している医療人育成センター教員と保健医療学部教員の情報共有・意見交換会を企画する予定です。一般教育科目は、専門職の根幹をなす人間を理解し、社会的な視座で物事を捉える能力、人々と連携・協働するためのコミュニケーション能力の獲得には欠かせない、非常に重要な科目です。主に1学年と2学年の授業履修状況



教務委員会の様子

を共有し、学修上の課題を早期に把握し支援につなげることを目的にしています。これまで以上にきめ細やかなサポート体制にする予定です。昨年度から再開した対面での保護者説明会を今年度も開催する予定です。昨年度、ご参加していただきました保護者の皆様からのご意見等を参考に企画して参りたいと考えています。是非、札幌医科大学に足を運んでいただければと思います。

保健医療学部学生表彰

保健医療学部では、毎年度、本学部を卒業する学生と進級制限が設けられている2年生を対象に、学業成績および人物が優秀で他の範となる学生を最優秀者、優秀者として表彰する制度を設けています。

令和5年度2学年においては以下の学生が表彰されました。

☆名張 愛未（看護学科・最優秀賞）

この度は名誉ある賞をいただき、大変嬉しく思います。この2年間、親身になってご指導してくださった先生方、同じ目標に向けてともに切磋琢磨した仲間から心から感謝申し上げます。3年生では、各領域の特性に応じた看護の学びを深め、領域別実習を通じて実践力を身につけるとともに、自己が理想とする看護師像について再考してまいりたいと思います。今回の賞を励みに、今後も努力を続け、精一杯頑張りたいと思います。この度は心からお礼申し上げます。



☆須藤 菜々海（看護学科・優秀賞）

この度はこのような賞をいただき、大変光栄に思います。これまで共に勉学に励んできた友人やご指導してくださった先生方をはじめ、多くの方の支えのおかげであると思います。心より感謝申し上げます。3年生からはより一層専門的な領域へと学習を進める事と思います。感謝の気持ちを忘れずにより一層勉学に邁進して参りたいと思います。

☆山下 愛未（理学療法学科・最優秀賞）

この度は大変名誉ある賞を頂き、ありがとうございます。いつもそばにいてくれた家族と離れて、大学生活に不安を抱きながら日々を過ごしておりましたが、優しくご指導して下さる先生方や共に勉学に励んでくれる同期に恵まれ、そしていつも陰ながら応援してくれる家族のおかげで、なんとかこの2年を乗り越えることができました。これからも、支えてくださる方々や今ある環境に感謝を忘れず、常に謙虚な気持ちでより一層勉学に励み、また、人としても成長できるよう日々精進して参りたいと思います。

☆石原 光理（理学療法学科・優秀賞）

この度は理学療法学科優秀賞をいただきまして、とても光栄に思います。私はこの2年間、様々なことを学習し体験してきました。病気や障害などを学ぶ講義や、実際の理学療法士の役割などを学ぶ臨床実習などに真摯に取り組むことで、理学療法士となるための知識や技術を身につけることができました。また留学に挑戦することで、海外の文化を学び新たに視野を広げることができました。このように多くの経験ができたのも、ご指導して下さる教員の方々や支えてくれる家族、切磋琢磨し合える仲間のおかげです。今後もより一層成長できるように、努力を重ねていきたいと思っています。

☆椋澤 実希（作業療法学科・最優秀賞）

この度は成績優秀者として表彰していただきありがとうございます。そして日々多くの学びを与えてくださる教員の皆さま、学習環境を整えてくださる運営関係者の方々に深く感謝申し上げます。新型コロナウイルスの影響で学び方も変化し、試行錯誤を繰り返す中で、今回このように評価していただけたことを大変嬉しく思います。社会に貢献できる作業療法士になるため、今後もより一層学業に励んでいきたいと思っています。

☆吉岡 祐香（作業療法学科・優秀賞）

この度はこのような名誉ある賞を頂き、非常に嬉しく思います。このような賞を取れたのは、私1人の力だけではなく、先生方のご指導や共に学び支えてくれた友人、自分の生活をサポートしてくれた家族のおかげだと思っています。これからも初心を忘れずに精一杯努力し、将来は作業療法士として困っている人を助けられるよう励んでいきたいと思っています。この度は本当にありがとうございました。

令和5年度卒業生の国家試験合格状況

- 看護師国家試験は49名が受験し、49名が合格しました。（合格率100%）
- 理学療法士国家試験は21名が受験し、19名が合格しました。（合格率90.5%）
- 作業療法士国家試験は17名が受験し、15名が合格しました。（合格率88.2%）

※合格率（全国平均）

- 看護師国家試験… 93.2% ●理学療法士国家試験… 95.3% ●作業療法士国家試験… 91.6%

